4 淀橋浄水場の廃止と現在の玉川上水

○淀橋浄水場の廃止とその後の玉川上水

昭和４０（１９６５）年、武蔵水路が完成し、水不足解消のため利根川の水が東京へ導かれました。淀橋浄水場は廃止となり、東村山浄水場へその機能が移されました。玉川上水の導水路としての役割も野火止用水との分岐点でもある小平監視所までで終了することになりました。

現在、羽村取水口から取り入れられた多摩川の原水は、取水所から村山貯水池と小作浄水場に送水されます。残りはそのまま玉川上水を流れ、途中６つの分水に放流し、１２キロメートル先の小平監視所に至ります。監視所内の沈砂池に導かれた原水は管路で東村山浄水場へ送られます。

○玉川上水の清流復活

導水路としての使命を終え、小平監視所下流の玉川上水は流れが途絶えていましたが、貴重な水辺空間をよみがえらせようと、清流復活事業が進められ、昭和６１（１９８６）年に流れが復活しました。

東京都下水道局多摩川上流水再生センター（昭島市）で処理された再生水は、約１８キロメートル下流の高井戸の浅間橋付近まで流れ、そこから管路で約６００メートル北の神田川に合流しています。

○玉川上水の史跡指定

平成１５（２００３）年８月には、玉川上水の開きょ区間約３０キロメートルが、江戸・東京の発展を支えた歴史的価値を有する土木施設・遺構として国の史跡に指定されました。

旧小川水衛所（小平市）